

予算要求資料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農業費 項：農業振興費 目：主要農作物対策費

事業名 需要対応型ぎふ米産地ブランド確立支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内4117)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,710 千円 (前年度予算額： 2,710 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	2,710	330	0	0	0	0	0	0	2,380
要求額	2,710	330	0	0	0	0	0	0	2,380
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

人口減少や食生活の変化により主食用米の需要が減少している中、米卸業者等の実需との結びつきの強化に向けて、利用者(食品産業等)のニーズに合わせたオーダーメイド型の産地づくりを推進する必要がある。

また、米生産者の所得向上に向けては、多収性品種の生産拡大や省力・低コスト栽培技術の普及、良食味栽培技術の確立が必要である。

(2) 事業内容

- ア オーダーメイド型米づくりによる産地創出
 - ・産地と実需が連携した県育成系統「清流のめぐみ(岐系207号)」の産地化に向けた支援
 - ・「清流のめぐみ」の種子生産体制の構築
 - ・「清流のめぐみ」の知名度向上に向けたPR事業の展開
- イ 多収性のある県奨励品種「ほしじるし」、「あきさかり」の生産振興
 - ・省力、低コスト等栽培技術の導入や生産拡大
- ウ 良食味高品質米生産に向けた取組み
 - ・食味向上に資する栽培管理体系の確立、指導者を対象にした研修会の実施
 - ・「みどりの食料システム戦略」の実践に向けたプラスチック資材低減技術の検討

(3) 県負担・補助率の考え方

主食用米の需要が減少する中、実需と結びついた生産・販売や需要に応じた米生産を推進することは、ぎふ米の安定供給につながることから、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	417	業務旅費
需用費	337	実証消耗品費 (207) 、調査燃料費等 (130)
役務費	725	郵便料、電話料、データ利用料
委託料	1,165	食味官能試験、産地づくり検討、研修会
使用料	66	会議室使用料、高速道路使用料など
合計	2,710	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」

第6章1 (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり

③ 水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

(2) 国・他県の状況

「食料・農業・農村基本計画」 (令和2年3月31日閣議決定)

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

米の消費量が減少傾向にある中で、需要に基づく新たな米の産地づくり、農業者の所得向上に繋がる米づくりを推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H26)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
米の食味ランキング (ハツシモ)	A	A	特A	特A	特A	33%
米の食味ランキング (美濃コヒカリ)	設定なし	特A	特A	特A	特A	100%
米の食味ランキング (飛騨コヒカリ)	特A	特A	特A	特A	特A	100%

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	(1) 良食味米の栽培方法の確立 施肥・管理等、良食味栽培実証ほの設置（4カ所） (2) 食味評価者育成研修会の開催 食味向上研修会：令和3年3月4日、49名参加 (3) 衛星画像を活用した米のタンパク含量等の推計分析 調査地区：下呂市、白川村
令和 3 年度	(1) 良食味米の栽培方法の確立 施肥・管理等、良食味栽培実証ほの設置（2カ所） (2) 食味評価者育成研修会の開催 食味向上研修会：令和4年3月15日、41名参加 (3) 衛星画像を活用した米のタンパク含量等の推計分析 調査地区：白川村
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	米の消費量が減少傾向にあるなか、需要が伸びている米生産の拡大、県主食用品種の良食味栽培技術の確立普及が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	米の需要減少が進むなか、食と農の繋がりの深化、農業所得の増大に資する取組であることから、本事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	計画や進捗状況、取組成果について関係機関と検討を図るとともに、必要に応じて、生産者団体等と連携し、技術確立の効率化に努める

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 需要に基づく米産地づくりの加速化、「特A」評価維持のための各種技術を活用した食味向上技術の強化が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・実需者等との結びつきの強化による米の販路拡大と安定供給の推進。 ・食味、品質や生産性の向上を図る栽培技術の確立普及。
--